

任国あんなこと!こんなこと!

☆次回から特集テーマを決めて掲載します。☆
マニアの投稿大歓迎!!

「酋長の娘と戦艦大和」 (後藤 隆郎 会員)

♪私のラバさん♪という「酋長の娘」の歌が1930年頃に流行し、子供のころに口ずさんだことを思い出す。それは実業家杉山隼人氏と酋長の娘ロサンの恋物語を石田一松作詞作曲によって唄にしたもので場所は、現在のパラオ共和国である。杉山氏は事業を始める以前は南洋庁のパラオ本庁に勤務し父とは面識があった。父は南洋庁の農業技師で在郷軍人の陸軍少尉であった。1920年、日本は国際連盟の委任統治国としてカロリン群島(パラオ、ヤップ、トラック、ポナペ、ヤルート)を委任され、パラオ島に本庁を置きその他の島々に支庁を置いた。私はコロール町の生まれである。これらの群島はダーウィンの進化論によるサンゴ礁が進化した島々で土地は肥沃でミカンが良く生育していたのを思い出す。常夏であり砂浜は真っ白で海水は透き通り、島の湾では珍しい魚が見られ水族館のようであった。1943(昭和18年)当時のパラオは平穏な島で、ある土曜日の午後には公園の近くのテニスコートで島民の踊り見ることが出来た。当時の踊る女性の上半身は丸出しで色々な型をしたパバイヤが並び、腰にはヤシの葉を細かく切り裂き幾重も厚く合わせたものを腰に着け足を上げて中身は見え、男性はフンドシ姿で踊っていた。果物のパバイヤはパバインという酵素を含有しているので、すき焼きの料理をするときは、青果の皮をはぐと乳液が出るのでその上に肉を置き、白い果肉も切り刻み料理に使い、また、漬物にすることを母に教えられた。その事がその後の海外生活の知恵として役立った。当時、パラオの人達を島民と呼び公学校で日本語教育を教えていた。現在のパラオ語の50%位は日本語と言われパラオ共和国は親日的である。

毎月一回、日曜日に父と私たち子供二人で南洋神社へ参拝していた。神社は高台にあり家から3kmの位置にあった。日中は暑いので薄暗い時刻に家を出発し途中で日の出を迎えた。神社からパラオ湾を一望することが出来、父が「沖に停泊中の軍艦は大和だよ」と言ったのを昨日のように思い出す。戦艦大和は内地で改装のためトラック島を1943年5月8日出港しているのでその時期と推測する。聯合艦隊司令長官山本五十六大将の乗った飛行機が撃墜され、当時、古賀峯一大将が司令長官であった。1944年のパラオ島は平穏であったが、中継地であったパラオの公園に休憩している日本の陸軍部隊が見られるようになり、ある日、樹形1mのカボックの木陰で倒れている兵隊に水を掛けているのが見られた。夕方、帰宅した父は葬式のために軍服に着替えて出かけた。

2月に父が海軍に召集され一旦日本へ帰国するため飛行場で見送った。残された母と兄と私の三人は集団引き揚げの貨物船に乗り、沖で見たものは10艘の船団となり、毎日、その周りに駆逐艦または掃海艇が護衛し、港から港への船旅であった。台湾の高雄に入港したときパラオが空襲になったと船内放送があり、また、日本近海で台湾が空襲に見舞われたと聞かされ戦争は私たちの後に迫り4月19日、無事門司港へ入港した。それは一ヶ月の船旅であった。

「ジャズの音はクリスタルシティ・ニューオーリンズから」(その2)

(高濱 清 会員)

ご存知のとおり、ニューオーリンズは、ジャズの王様アームストロングを生んだところであり、アフリカ系米国人音楽家による正当派のジャズを心行くまで堪能することが出来ます。町に目をやれば、「欲望という名の電車」という映画で有名になった路面電車が、多くの観光客を乗せて映画「風と共に去りぬ」にでも出てきそうな大きな檜の木々に囲まれた町並みの中をゆったりと走っています。他方、市内のマーケットには、私が勤務した頃は、豊富な魚介類、新鮮な野菜果物が所狭しと並んで、食生活の豊かさを感じたものでした。日本食も健康食品的イメージで人気が高くその評判は今も変わらないようです。

ここで当市と日本の関係上特記すべきことを紹介します。一つは怪談などの作者で有名なラフカディオハーン(小泉八雲)との関係です。彼は1877年から10年間ニューオーリンズに記者として滞在し、1884年に同市で開かれた万国産業博覧会で見た日本文化にあこがれ、訪日し多くの功績を残しましたが、現在はハーンが滞在した高根県松江市が1994年3月、同市と姉妹都市、友好都市関係を締結し、民間交流を進めています。

次に、日本の科学者高峰譲吉博士と同市の係わり合いです。同博士は、1884年の万国産業博覧会の日本政府代表の一人としてこの地を訪れそこで生涯の伴侶となる米国夫人と出会い、そこで長い米国での生活の一步を踏み出したのです。同博士は、アドレナリンのタカジャスターゼ発見の大偉業を成し遂げると共にニューヨークに最初の日米協会と日本倶楽部を作り、更にはワシントンのポトマック河畔に桜の木を植えるべく運動し、日米交流の架け橋となった人物です。

現在、米国で二番目に大きいニューオーリンズ港から飼料穀物、化学製品などの多くが日本に輸出されていますが、日本からは化学工場や自動車メーカー(ミシシッピ州)が進出しています。因みに日本総領事館は、ルイジアナ州の他にケンタッキー、テネシ、ミシシッピ、アーカンソー州の5州を管轄する責任を持っています。皆さんが旅行される際の参考にして下さい。最後にカトリーナによる被災からニューオーリンズ市が一刻も早く立ち直ることを祈念し同市の紹介を終えたいと思います。(了)

編集後記

皆様、桜は御覧になったでしょうか。

今年は寒かったせいか、桜の花が近年になく美しく咲いたように思われます。先日、谷岡会員の紹介で横浜のあるコミュニティで話をする機会がありました。最近、このような地域のボランティアの集まりが多くなり、会の世話役の父母さん方が熱心にさまざまな問題に取り組んでいる話を伺い、とかく他者との関わりが薄れている現代、新しい地域社会が確実に生まれているようでとても心強く思いました。

この春、JECKの中に新しく生まれるNPOも、いつの日か大きな花が咲くことを願っています。このNPOに新会員を是非お連れ下さい。

(佐藤)

JICA帰国専門家連絡会かながわ会報 第6号

発行 2006年4月

発行者 JICA帰国専門家連絡会かながわ(JECK)

事務局 谷保 茂樹(e-mail:Staniho@aol.com)

横浜市青葉区青葉台1-3-9

株式会社ティーエーネットワーク内

編集委員会 佐藤満寿哉(編集責任)

中之蘭賢治(代表幹事)、鈴木千明、物部宏之、谷保茂樹

印刷 横浜リテラ(URL: <http://www.yokohamalitera.com/>)

(e-mail: info@yokohamalitera.co.jp)

横浜市戸塚区上矢部町2039-2